

令和7年度
相生中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標
○「考える力」「行動する力」「伝える力」を育む授業の実践

学力向上検討委員会構成
学力向上推進員
中本 亜希子
委員
1学年主任
2学年主任
3学年主任
教務
中本 山村 亜希子
龍田 美奈
福田 祐貴
福田 康治
校長
吉岡 博文

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】
生徒、教員のアンケートにより、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識・技能を身につけようと、一生懸命に努力することができる。 ●身につけた知識を活用し、さらに学習を深めることに課題がある。	・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけ、学んだことを他の場面でも活用することができる。	・毎時間、学んだことの振り返りを行う時間を設定する。 ・各教科でいつでも見返せたり活用したりできるようにするための見方・考え方を提示しておく。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表などの準備をしっかりと行い、自分の意見を伝えることができる。 ●様々な意見から自分の考えを深めることに課題がある。	・学校生活の様々な場面で、自分の考えをもち、表現することができる。 ・様々な意見から自分の考えを深め、積極的に活動に参加する。	・自身の考えをワークシート等に記入した上で意見交換を行うことのできる時間を設定し、改めて自分の考えを深めさせる。 ・全校集会での話し合い活動の中で、系統的な学年目標を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業の目標や課題に対して、真面目に取り組むことができる。 ●問題解決に向けて自ら計画し、最後まで粘り強く取り組むことに課題がある。	・授業だけでなく生活においても自ら課題を見いだして解決策を考えることができる。	・各教科の特性を活かした生徒の生活に身近な教材を使用する。 ・生徒自身がファシリテーター役を担う機会を設定する。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

